

近年の少子化、核家族化といった社会の変化や、携帯電話、ゲームなどの影響を受けて家庭内でのコミュニケーション不足が指摘されています。そして、震災をきっかけに家族のあり方や絆が見直されていますが、みなさんは家族のコミュニケーションをどのようにとられているでしょうか。

この4月、私の家族に生活変化がありました。それまでは朝食や夕食など、みんな一緒にとはいかなくても顔を合わせていたのですが、時間帯がそれぞれになったことですれ違いが多くなり、これから家族のコミュニケーションはどのようにとっていくかと考えていました。

そのような時「東日本大震災などで家族の絆が見直される中、家族の予定や一言日記を一冊に書き込める『家族カレンダー』が人気だ」という新聞記事を見つけました。

そのカレンダーはお互いの予定を把握するだけでなく、書き込むことが会話のきっかけになるとも書かれています。

生活変化に慣れてきたこともあるかもしれませんが、私の家族はいつの間にか居間に集まるが多くなりました。一緒に過ごす時間は少なく、これといった話もし

ないのですが、みんなと過ごす心地よい時間が、コミュニケーションになっていっているのではないのでしょうか。

それぞれの理由で顔を合わせる機会が少なくなってしまうからこそ、家族で工夫をしながらみんなが集まり、もっと話をして家族のコミュニケーションを大切にしていきたいと思いました。

毎日の家庭でのコミュニケーションによって、子どもたちの、自分の気持ちを素直に表現する力や相手を思いやる気持ちが育まれる気がします。

独りでいる時間が世界で最も長い子どもは日本の子どもたちだと言われています。今の子どもたちに必要なのは、ゲームソフトや洋服といった“物”ではなく、家族との“時間”なのではないでしょうか。

※このシリーズはあなたとあなたの周りのいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

※お問い合わせは
人権啓発広報委員会

(☎880・6569)まで

「もっと話そうよ。大切な家族だから」